

生命のにぎわいとつながり

平成28年7月

夏は真っ盛り。バカンスで海、山、あるいは地方など普段と違った場所へ出かける機会も増えること
でしょう。普段なかなか見ることができない貴重な生きものに出会うチャンスですので、それらを通し
て生物多様性を学習してみませんか。

本号では、「海特集」として、海の絶滅危惧種について紹介するとともに、県立中央博物館で開催さ
れている企画展「驚異の深海生物」から、「海のダンゴムシ」といわれて人気者の「オオグソクムシ」の
解説と、春期の生命のにぎわい調査団現地研修会の開催結果についても報告します。

海の絶滅危惧種 ～千葉県の実状～



図1 上： ふ化脱出直後のアカウミガメ (千葉県立中央博物館分館海の博物館収蔵資料展広報用データから)
下： 千葉県の保護上重要な生物 (千葉県RDB：2011改訂版) で「消息不明・絶滅生物 (X)」に選定されているアオギス

近年、地球上の生物種の多くが絶滅の危機に瀕しているとされ、国や県でもいわゆるレッドリストの作成を通じ
てさまざまな生物の希少性の評価を行い、これらを生物多様性の保全に活かしてきました。しかし、海の生きもの
については、情報が不十分なこともあり評価対象は限られています。千葉県の海の生きものについては、貝類、一
部の魚類や甲殻類、海岸性昆虫や植物などが県のレッドデータブックの評価対象に含まれていますが、全体として
みるとまだ十分とは言えない状況です。

CONTENTS

1	海の絶滅危惧種 ～千葉県の現状～	1
2	県立中央博物館企画展 驚異の深海生物—新たな深世界へ— から「深海の人気者オオグソクムシ」	3
3	生命のにぎわい調査団の現地研修会を開催しました	3
4	千葉県の希少種 (ミゾゴイ)	4

○失われる海的环境

千葉県において、海の生きものの主要な減少要因として挙げられるのは、生息・生育環境の消失や悪化です。化学物質や過度の栄養塩の流入による海の汚染に加え、特に東京湾では、多様な生物が生息していた干潟の90%以上が埋め立て等により消失しました。海と陸など異なる環境間の移行帯(エコトーン)と呼ばれる場所は、豊かな生物多様性を持つ場所である一方、人間活動によってとりわけ消失しやすい場所です。干潟やその後背湿地などは埋め立てによって、また砂浜海岸や岩礁海岸ではクロマツの植栽や護岸などによって、それぞれ特有のエコトーンが失われています。このため、海の生きものの中でも、特にエコトーンやその近傍に生息・生育する種、また繁殖など生活史の一時期にそこを利用する必要がある種の多くが絶滅の危機に直面しています。

○絶滅した・絶滅の危機にある生きもの

千葉県の海の生きものの中には、県のレッドデータブックにおいて絶滅、もしくは絶滅の危機にあるとされる種が少なくありません。例えばアオギス(図1・下)は、かつては東京湾の浅海域に広く生息していた魚です。アオギスが「脚立釣り」によって釣られる光景は初夏の風物詩となっていました。昭和30年代以降、アオギスが泳ぐ姿は東京湾から消え、千葉県では「絶滅・消息不明種」となりました。貝類ではクロヘナタリ、ヒロクチカノコやハマグリなど、干潟性の種類を中心に県内で18種がすでに絶滅したと推定されています。これらの種はかつては多産したものであり、このような生きものが絶滅したという事実は、その環境変動の激しさを物語っています。また、絶滅は免れているものの、海産の種類全般を評価対象としている貝類では、干潟のほか、浅海域の砂底や岩礁に生息する約200種が絶滅危惧種、魚類や甲殻類については評価対象が一部ではありますが、魚類4種、十脚甲殻類18種が絶滅危惧種としてリストアップされています。これらの種では、現状のまま放置した場合、絶滅の危険性が高い種も多く含まれます。



図2 海岸の様々なエコトーンの姿。上左右： 後背地が残る干潟，下左： 後背地が残る磯浜，下右： 砂浜に残る植生帯(花はハマヒルガオ)

○研究の進んでいない生きもの

先に述べたように、県のレッドデータブックで取り扱われている海の生きものは、限定的です。海の生きもの多くの多くは、過去から現在に至る生息・生育状況の情報が限られるなど、客観的な評価が困難であるため、そもそも評価対象となっていません。このため、絶滅危惧種の種数が過小評価されていることは間違いないでしょう。そもそも分類すら進んでいないグループでは、もしかすると名前がつけられる前に絶滅してしまった種もいるかもしれません。現状では、一つの絶滅危惧種の背後には多くの潜在的な絶滅危惧種が潜んでいると認識する必要があります。また、博物館等の研究機関では、網羅的な生物相調査の継続など、基礎情報を蓄積する活動を続けていくことが重要です。

○最近の動向

現在、国においては、海洋生物多様性保全戦略に基づく「重要海域(生物多様性の観点から重要度の高い海域)」の抽出に続き、海洋生物の希少性評価の検討が開始され、本年度、海洋生物に係るレッドリストが公表される予定となっており、徐々に海の生きもの絶滅の危機に対する評価や基礎情報の蓄積が進んでいます。また、これに先立ち、日本ベントス学会では、干潟を中心とした浅海の底生生物のレッドデータブックを出版しており、これまで扱われていなかった分類群も含めた評価が行われています。千葉県から国の「重要海域」に沿岸10カ所(全国で沿岸270カ所)が抽出されています。県は、県下全域の海岸線について「海岸保全基本計画」に基づいて、海岸の防護に加え、海岸環境の保全や海岸利用にも配慮した総合的な海岸保全を行うこととしており、今後、「重要海域」を念頭に置いた海岸環境の保全が期待されます。

○海の絶滅危惧種についての企画展開催中

このような現状を分かりやすく紹介するため、現在、県立中央博物館分館海の博物館(勝浦市)では、海の絶滅危惧種に焦点を当てた収蔵資料展「海の絶滅危惧種」を開催しています。この展示では、県の絶滅危惧種を中心に、藻類5種、種子植物9種、貝類41種、甲殻類16種、魚類7種、爬虫類3種、その他7種、計88種(開催中に前後する場合有)を標本や生体で展示しています。これらのうち、アオギスやクロヘナタリなど県内で絶滅したとされる11種についても、県外で採集された生体や過去に採集された貴重な千葉県産標本を展示しています。絶滅種または絶滅の危機にある生きものの実物をご覧いただき、海の絶滅危惧種の現状を知っていただきたいと考えています。この展示が海の生きもの将来を考えるきっかけになれば幸いです。

(柳 研介 千葉県立中央博物館分館海の博物館 主任上席研究員)

海の博物館で収蔵資料展「海の絶滅危惧種」開催中
会期：平成28年7月16日(土)～8月31日(水)

**県立中央博物館企画展 驚異の深海生物
—新たなる深世界へ—
「深海の人気者オオグソクムシ」**

水深200mより深い海、深海。そこは、暗黒、低温、高圧で地上とはまったく異なる世界です。光合成により栄養を得る植物は存在しません。しかし、そのような過酷と思える環境にも多様な生物が工夫をこらして生きています。この企画展では最新の研究の成果をふまえ、未知の世界ともいえる深海にすむ生物の標本を世界中から集めて紹介します。

例えば、巷で人気のオオグソクムシの仲間を3種展示します。みなさんはオオグソクムシが何の仲間か知っていますか？身近なダンゴムシやワラジムシと同じ等脚目の一員で、エビ・カニと同じ甲殻類の仲間です。和名を漢字で表すと「大具足虫」です。「具足」とは鎧のことで、板札（いたざね）と呼ばれる板をつなぎ合わせた構造がグソクムシ類の外骨格によく似ています。

巨大なダイオウグソクムシはその名の通り、世界最大の等脚目甲殻類です。本種はアメリカのフロリダ〜ブラジル沖の西大西洋に分布します。近年、各地の水族館で生体展示がされるようになり、おなじみの深海生物となりました。オオグソクムシはダイオウグソクムシに比べるとずいぶん小ぶりですが、それでも日本最大の等脚類です。

コウテイグソクムシ（仮称）はダイオウグソクムシに匹敵する巨大種で、今のところフィリピンでしか見つかっていません。学名がまだ定まっておらず、研究の余地がまだ残されていることがわかります。



ダイオウグソクムシ

この他にも、さまざまな深海生物が集結します。このチャンスを逃しては二度と見るできない生物もいるかもしれません。この夏は中央博物館で不思議な魅力に満ちあふれた深海生物の世界をご覧ください。

(駒井 智幸 千葉県立中央博物館主任上席研究員)



**いのち
生命のにぎわい調査団の現地研修会を開催しました
「犬吠埼・君ヶ浜で生きものを観察しよう！」
5月7日(土)**

千葉県東端の銚子での研修会でしたが、驚いたことに史上最高の83名（団員71名、自然保護課・生物多様性センター12名）での開催となりました。この人数では全員で一緒に動くのは難しく、3班に分かれての観察となりました。

午前中は、1班（親子連れ）が磯の生きもの観察、2班と3班は交代で崖の地層や海辺の地形の観察と、海岸植物の観察をしました。灯台のすぐ北側の崖の上で昼食を取った後、午後は1班が地学と植物の観察、2・3班が磯の生きもの観察をしました。

干潮が午前10時半でしたので、午前中の磯遊びには最適で、大量のヒトデやカニ、ヤドカリ、まさかのマガコまで採集できました。鳥はあまり多くは見られませんが、植物はハマエンドウやハマボスなど典型的な海岸植物に加え、千葉県の海岸でしか見られないボウシュウタンポポも見る事ができました。



磯の生きもの観察中、ヒトデがいっぱい

今回は銚子市周辺の団員さんも大勢参加され、団員の皆さんどうして積極的に情報交換を楽しんでいらっしゃる様子が印象的でした。第2回現地研修会は9月下旬に予定しておりますので、どうぞお楽しみに！

《研修会で発見された生きものリスト》

鳥類：ウミウ、ウミネコ、オオセグロカモメ、オオミズナギドリ、カワウ、カワラヒワ、キジバト、コジュケイ、シロチドリ、ハシボソミズナギドリ

魚類：アゴハゼ、イダテンカジカ、ドロメ、ミミズハゼ、メジナ

甲殻類：イボトゲガニ、イワガニ、カメノテ、ショウジンガニ、ヒライソガニ、ホンヤドカリ

海綿動物：ダイダイソカイメン、ナミイソカイメン

刺胞動物：ウメボシイソギンチャク、カツオノエボシ、

ベリルイソギンチャク、ミドリイソギンチャク

扁形動物：オオツノヒラムシ

軟体動物：(頭足類) マダコ、(二枚貝類) チョウセンアサリ、(巻貝類) アラレタマキビ、イシダタミ、イボニシ、カモガイ、ヨメガカサ、(ウミウシ類) ヤマトウミウシ、ミノウミウシの仲間、アメフラシ

環形動物：ウミケムシの仲間、ササラウミケムシ

棘皮動物：イトマキヒトデ、ウデフリクモヒトデ、エゾヒトデ、キタムラサキウニ

昆虫：アワフキムシの一種、イソジョウカイモドキ、オオハサミムシ、オオモンツチバチ

クモ綱ほか：イソカニムシ、イソハエトリ、コモリグモの一種

植物：イソギク、コウボウシバ、コウボウムギ、コケリンドウ、ソナレマツムシソウ、タイトゴメ、テリハノイバラ、トベラ、オオシマハイネズ、ハマエンドウ、ハマオモト、ハマゴウ、ハマダイコン、ハマナデシコ、ハマヒサカキ、ハマヒルガオ、ハマボッス、ボウシュウタンポポ、マルバアキグミ、ラセイトソウ

海草：スガモ

海藻：(褐藻) フクロノリ、(紅藻) イギス、イボツノマタ、コトジツノマタ、タンバノリ、ハリガネ

(御巫 由紀 千葉県生物多様性センター)

お知らせ ～巡回展の開催～

今年度も市町村等が主催する環境フェアなどで、県民の皆さんに生物多様性を知っていただくためにパネルの展示とクイズを行います。ぜひお立ち寄りください。

H28.9.22(木) **エコメッセ2016inちば**

於：幕張メッセ国際会議場

H28.10.9(日) **いちばら環境フェスタ**

於：市原市役所

H28.10.22(土) **印旛沼クリーンハイキング**

於：成田市甚兵衛公園

H28.10.29(土) **第14回印旛沼流域環境・体験フェア**

於：佐倉ふるさと広場向かい側

H28.11.3(木) **第3回自然誌フェスタ千葉**

於：県立中央博物館

H28.11.3(木) **長南フェスティバル**

於：長南町役場

H28.11.20(日) **リサイクルフェア**

於：富里中央公園イベント広場

(酒井 さと子 千葉県生物多様性センター)

千葉県の希少種

ミゾゴイ

(千葉県レッドデータブック：最重要保護生物A)



ミゾゴイは、本州以南に夏鳥として渡ってくるサギの仲間です。他のサギと異なり水辺で魚類などを食べるのではなく、薄暗い林や小さな沢でミズズやサワガニなどを食べて暮らしています。ゆったりとした動きで地面を歩きまわり、地表に現れたミズズなどをくちばしでつまみ取るように静かに食べます。その姿は水辺で俊敏な狩りをするコサギと同じサギ科とは思えません。羽根の鮮やかな緋色も、薄暗い環境では黒っぽく地味に見え、なかなか脚光を浴びることはありませんでした。

しかし、ミゾゴイはIUCN(国際自然保護連合)のレッドリストでは絶滅危惧IB類、環境省では絶滅危惧II類、千葉県では最重要保護生物(A)に、それぞれ選定されています。減少した理由としては、冬を過ごす東南アジアの熱帯雨林の大規模な減少や、ほぼ日本のみで繁殖するため、繁殖に適した環境が開発などで激減したことが要因となっています。

トキやコウノトリのように優雅で有名な鳥ではないため、里山再生に関わっていても、ミゾゴイを知らない方も多くいます。すでに多くの都道府県のレッドデータブックに記載されているにも関わらず、知名度が低すぎて保護に踏み出せていないのが現状です。

なかでも県内の生息状況はよくわかっていません。生命(いのち)のにぎわい調査団でも、ミゾゴイの報告は過去8年間でたったの1件でした。私自身、各地を探し歩き、知人に連絡をもらいながら探しても実際に見られたのは東京都内の公園に立ち寄った1羽だけです。もともと千葉県での繁殖記録は少なく、記録の多くは渡りの時期に単独で立ち寄ったとみられる個体がほとんどのようです。もし、4月頃に「ブォ・ブォ」という声が夜通し響いてきたら、近くの谷津田にミゾゴイが来ているかもしれません。姿を見かけたら、そっと、遠くから見守ってあげてください。

(中込 哲 千葉県生物多様性センター)



生物多様性ちばニュースレター No.49 平成28年7月31日発行

編集・発行 千葉県生物多様性センター(環境生活部自然保護課)

〒260-8682 千葉市中央区青葉町955-2 (千葉県立中央博物館内)

TEL 043(265)3601 FAX 043(265)3615 URL <http://www.bdcchiba.jp>